

(1) (第14号)

鵜

戸

昭和54年10月20日

皇太子同妃兩殿下

御参拜



発行者兼編集者
鵜 戸 神 宮
社 務 所
印刷所
西 日 本 印 刷



皇太子同妃両殿下御参拝

去る九月十六日午前十時二十一分皇太子同妃両殿下には、ご成婚直後の昭和三十七年のご参拝以来十七年ぶりに当神宮にご参拝されました。

第三十四回国民体育大会は宮崎県が開催県であります。九月十六日より夏季大会が開催され、その開会式に両殿下がご臨席され、ご参拝とご国体が開幕されました。

開会式終了後、両殿下は沿道に植えられたフェニックス・ワシントンニアバームなどの亜熱帯樹の緑がひととき映える快晴の日南海岸を南下され、当神宮に御到着になりました。

儀式殿でしばらくご休憩のあと、宮司の先導にて御本殿に進まれ、皇祖の御神霊に玉串を捧げて、御拝遊ばされました。ご祭神縁りのお乳岩・お乳水をご覧になり、投げた運玉が当れば願いがかなうという霊石の亀石に両殿下のお投げになった運玉が当り、にっこりと微笑んで居られました。両殿下には、見事復興造営なった社殿、楼門、儀式殿に感嘆され、昭和四十五年旧社務所が火災にあった

さい妃殿下より、災いを転じて福となせよという御言葉をいただいた話等、宮司の申し上げた話に耳を傾けて居られました。

儀式殿で再びご休憩、そこで知事の紹介で日南市長、日南市議会議長のご挨拶を享けられ、十一時二十一分役員総代をはじめ特別奉迎者に御会釈を賜りつゝ、儀式殿前広場より御車で、日南猪崎鼻のヨット会場に向われました。

戦後の皇族方御参拝の記録

義宮正仁親王殿下	昭和二十九年四月七日
高松宮宣仁親王殿下	昭和三十年六月二十二日
三笠宮同妃両殿下	昭和三十年十一月十四日
高松宮妃喜久子殿下	昭和三十五年五月十三日
皇太子同妃両殿下	昭和三十七年五月四日
義宮正仁親王殿下	昭和三十八年八月二日
常陸宮同妃両殿下	昭和四十三年七月十三日
三笠宮妃百合子殿下	昭和四十四年四月二日
天皇皇后両陛下	昭和四十八年四月十一日



上は 千鳥ヶ滝付近 下は 運玉を投げられる両殿下



御神幸祭

真夏の祭典当宮御神幸祭は本年も、七月二十八日、二十九日の両日、日南市最大のまつりである港まつりに併せて盛大に執り行なわれた。

昨年は、台風の影響で例年の海上渡御が中止となり、陸路御神幸となった関係者を慌てさせたが、本年も、当初八月四日、五日に行う日程であったのが、県知事汚職にともなう県知事選挙が八月五日投票となるハプニングが舞込み、急きよ前記の日程に変更されたのであった。

二年続きの計画変更となった当宮御神幸祭であるが、気がかりだった台風や大雨の心配もなく、当日は真夏の太陽が照りつける暑い一日となった。午後二時、本殿にて御発興祭を斎行したあと、召立の儀を行い、獅子を先頭に八丁坂参道を通り鵜戸港へと出発した。御座船に神輿が奉安されると、約百隻の漁船の供奉のもと、大漁旗をなびかせて長蛇の列をつくり、一路油津港へと向った。

近くの野外ステージでは、五時より演芸大会が催され、郷土の生んだシンガーソングライター小坂恭子の特別出演をはじめ、数々の出し物に聴衆は聞き惚れていた。又、八時から、恒例の花火大会がくり広げられ、夜空を彩る絶景に集った約三万人の市民をうならせた。

翌二十九日は、午前九時、御還幸祭を斎行したあと、市中パレードに移った。パレードは子どももこし、油津小鼓笛隊を先頭に日南交通少年団、日南青年会議所、ボーイスカウト、社交業組合等、約千人の神賑隊が参加した盛大なお祭りとなった。

一方油津港周辺では、少年剣道大会、弓道大会等の数々の奉納大会が催された。今年には特に、日南市那覇市姉妹都市盟約十周年を祝い、那覇物産展が開かれ、琉球舞踊も披露された。

午後、油津港を後にして往路同様、海上渡御にて本宮へむかい、本宮御還幸祭を執行して今年の御神幸祭は終了した。



油津港に上陸後、例年だと市内御神幸であったのだが、本年より翌日に変更され、上陸した神輿は、中央突堤に舗設された御旅所に着御になった。御旅所

ヨーロッパ駆け足(5)

権宮司 佐藤 美春

昭和五十二年
九月十二日(イタリア)

朝早くからローマ市内の古い史蹟を廻って、夕食は下町情緒のあるカピツキの居酒屋(地下にローマ時代の古井戸がある)でイタリアの民謡を聞きながら腹つまみであった。この居酒屋は、大通りから二百米ばかり入った古い裏街で、道は狭く、迷路の様にくねくね曲っている。両側はみんな三、四階建てのレンガ造りで、城壁の様に高い。街燈は無くところ／＼の家から漏れるほのかな明りだけである。おまけにあちらこちらに黒い影が集って何とも気味の悪い街である。

一行は二列に並んで手をつなぎ、婦人の手提はひたたくられない様に特に注意して内側にいたし、前の人との間をあけない様にし、そして前後に引卒者が付いて歩く、全く漫画である。お蔭で、誰はばかり事なく家内としっかり腕を組んで歩いた。この夜、別のグループの日本人四人がタクシーで帰る途中おそれ、お金を取られた

という事であった。ローマ泊り
九月十三日(イタリア)

午後二時まで自由行動であったので、UさんSさん夫妻と、ポロン広場を通過して、ピッピ一族の群がっている賑やかなスペイン広場あたりに買物に行く。ローマの商店は、午前九時から正午まで閉め、正午から午後三時まで閉めて昼寝、午後三時から七時まで又開けるという。午後一時頃、閉まっている店の前をうろ／＼している一行中の娘さんに会う。何でも洋服を買って、ホテルに帰って付いているバンドの無いのに気付いて来たというのであったが、扉が降りていてどうしようもなかった。

イタリアの貨幣はリラである。百リラは三十五円であった。交換したリラは残さない様にみんな使ってしまったおうと、買物をして、トイレ用の硬貨二枚残して、レストランでパンを食べた。勘定は六人で小銭を全部並べた。少し足らなかったが、「OK」とまけてくれた。そのお礼もかねて、折目のない五百

円紙幣をサービスしたら、店主がニコ／＼して握手を求めて来た。

夕刻ローマ空港へ。自動小銃を構えた兵隊が十米位おきに立っていてなんとも物物しい。「笑うとズドンとやられるからだまって歩く様に」と注意があって、異様な空気にみんなだまって港内は神妙に歩く。機は無事ローマよりギリシャのアテネに飛んだ。



— アテネのアクロポリス —

しゃく熱の太陽が沈んでアテネの空は夕焼けがして暗くなりか
アテネは治安がまことによく保たれていてスリがないから、荷物はホテルの何処に置いても安心といわれて心配がなくなり、荷物は休憩室に無造作に置いての夕食であった。ワインがよくまわった。料理も日本人の口に合い、果物がなんともおいしかった。

九月十四日(ギリシャ)

お天気上乘、寝不足の目には、朝からキラ／＼の太陽が一層まぶしい。バスは古代ギリシャのパンアテナ祭に使われた競技場のあとに建てられた第一回(一八九六年)の近代オリンピックスタジアムの前を通り、アテネの中心部の賑かな街を通過して、アクロポリスの丘に對面する丘にのぼり、アクロポリスの全景を眺望する。この丘に古代ギリシャの哲人ソクラテスがつけられたという獄舎の跡がある。

いよ／＼ギリシャの象徴であるアクロポリスである。かつてはアテネ王国の城砦であった。紀元前五〇〇年頃ペルシャとの戦に勝利を得てから、アッティカ地方の守護神アテナに捧げるパルテノン神殿を建立した。このアクロポリスはエジプトのピラミッドと並ぶ石造文明の貴重

な遺跡である。

大理石の岩山を登って行く。左右に巨大な大理石の円柱が三本づゝ立っている。ドーリア風の壮麗な山門である。この山門を過ぎると右手に神々の浮彫もみごとな勝利の女神アテナを祭った小神殿がある。登り坂の足許は凸凹の自然の大理石の岩石でツル／＼である。頂上に純白の大理石の四十六本のドーリア式の大円柱が並び、まことに均整のとれたパルテノン神殿が建っている。ギリシア建築の粋をこらして建てられたもので、その壮大さに驚く。こんなとてつもないものがどういう工法で建てられたかは、今も謎であるという。

この神殿の崖下から右に見て右にオデオン野外音楽堂、左に五千人を収容したというディオニソス劇場の遺跡がある。

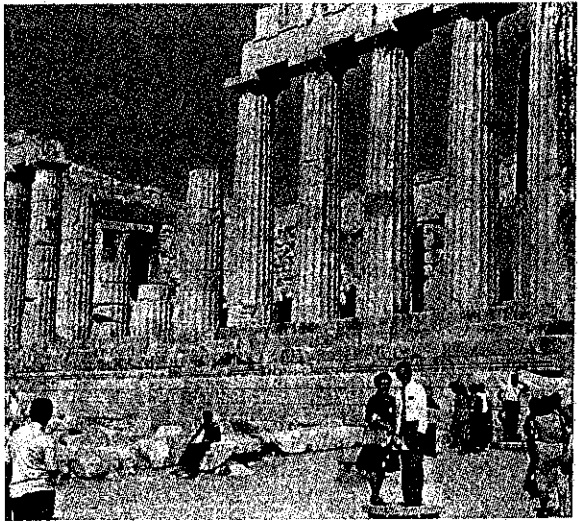
中食はエーゲ海のピレウス港の帆船のひしめく海辺でおいしい魚料理であった。ボン／＼船で港内を遊覧する。砂浜のところは海水浴で賑わっていた。

ギリシアは一年の内三百日は晴天で、雨は十日位しか降らないという。太陽に恵まれて一年中キラ／＼で、山は岩石が多く木はやせて肥らない。帰りのバスは官殿の横を通

る。面白い民族衣装の衛兵が四、五人交代していた。

夕刻空港へ。ギリシア人はなつこいようである。ホテルの案内人がバスに乗って送ってくれたが、「スケベーの本は持つて帰れないから私にください。」と日本語で笑わせた。ギリシアの貨幣はドラクマである。一ドラクマ約八円であった。ギリシアの思い出にと、お皿を見たが、大きいにも小さいのにもみんな裸の神様が描かれてあったのでやめた。

さらばヨーロッパよ又来るまでは……
機は十四日夕刻五時過アテネ



— パルテノン神殿 —

を飛った。みんな安心して一歩んに疲れが出て、前後不覚でねむった。

九月十五日(帰国)

機は南廻りである。パンコック(タイ)あたりで免税品のウイスキー、タバコを売りに来た。たちまち売切れである。機内食も半分日本食となり、日本近しと腹の虫が知った。機はアテネ(ギリシア)→テヘラン(イラン)→ニューデリー(インド)→バンコック(タイ)→羽田(日本)と約二十時間で十五日午後九時過ぎ(時差八時間)暗い羽田に無事着いた。

「一行は病人もなく、これという事故もなく長い旅を終えて互ひに無事をよるこび合い、ジャルパックの引卒者小出さん、川西さんに感謝の意をのべ、機内で解散となった。防疫の報告書を提出して、特別の土産もなかつたので、いの一箱に税関へ行き、トランクを開けて見せた。係官がボール箱に目をつけ蓋を開けた。家内の草履だったので「はいよろしい。」出口に次女と孫娘と甥の笑顔が出迎えてくれた。

東京に一泊、翌日美しい雲上の富士山を眺め乍ら宮崎に飛んで帰る。
無事帰国の報告に鵜戸の大神の御前にぬかづく。飲み水の不自由なヨーロッパを思い乍ら御手洗の鉢から溢れる有難い清水を腹一ぱい戴く。二拝二拍手一拜。
ヨーロッパ人は、昔からたえず隣りの国からの侵略を受け、何時も生か死の境をさまよう戦々恐々の歴史にはぐくまれて来たので、其の生活ぶりは落着かない。如何に敵を防ぎ、如何にすばやく逃げるかを常に考えている。だから家の中、寝室まで土足である。
ホテルも勿論、各部屋の中まで土足である。人を見たら敵、

ネの美しい夜景を眺め、中心街の裏手の野外レストランで一杯やり乍ら若者のバンド演奏や、ギリシャ踊りを見る。午前二時近くに。最夜中というのに、レストランはこれからがますます賑かになるという。明朝は五時起床と連絡板に書き出された。荷物を整理して風呂に入ったのが三時であった。
お天気上乘、寝不足の目には、朝からキラ／＼の太陽が一層まぶしい。バスは古代ギリシャのパンアテナ祭に使われた競技場のあとに建てられた第一回(一八九六年)の近代オリンピックスタジアムの前を通り、アテネの中心部の賑かな街を通過して、アクロポリスの丘に對面する丘にのぼり、アクロポリスの全景を眺望する。この丘に古代ギリシャの哲人ソクラテスがつけられたという獄舎の跡がある。

泥濘と思う心境であるから各部屋毎にカギを掛け、バス、トイレ付である。他人とは絶交である。部屋から一歩出れば道路であるという考えである。食事はナイフ、フォークを使って肉を切り、刺して食べる。まことに殺伐で穢やかでない。
日本人は、神代の昔から、四方海に囲まれた自然の環境に恵まれ、異民族の侵略を受ける事なく、平和にはぐくまれて来たので、国内は同胞であり、一大家族で、其の生活の様子は平和で落着いている。玄関に履き物をぬぎ、一風呂浴びて、青畳に浴衣がけ、すっきりくつろいで、一杯やり、鯛の塩焼き、白のお米の飯に豆腐の味噌汁、香の物、お箸で戴く其の平穩さ、まさに極楽である。
外国のまねをしたホテルは別であるが、旅館は勿論大家族の様式である。
緑豊かに水清く、四季を色どる自然の美、天神地祇八百万の神の守ります豊葦原の瑞穂國、大和民族の祖先の魂のこもる、日の丸の日本はやはり一番いいな。
こゝに改めて、有難い国日本。神と祖先に感謝の意を捧げずにはいられない。二拝二拍手一拜。

欧州を訪ねて

岩切重信

鶉戸神宮、青島神社の格別の御後援により宮崎県神道青年会海外宗教文化事情視察員の一人として、又、神道国際友好会の一員として、去る二月二十四日より三月八日まで、十三日間に亘り、第三次欧州宗教事情視察旅行に参加する機会を与えていただいたことは望外の喜びであり、感激でありました。

旅に出る前は、あれも見よう、これも見たいと盛沢山の抱負をもっていました。これと云った準備も整わず増川会員の編集した欧州宗教事情視察みどころ案内記を一読したのを頼りに、持前の呑気さも手伝って、初めて、ジャンボ機に乗り込んだのであります。

素より、言葉は全く自信なし、手真似、足真似、心臓でゆけ、とばかり、覚悟を決めて渡欧したものの、スケジュールの関係で、毎日の様に変る言葉と、通貨の名称や、その種類には全く閉口しました。

今回の旅行の目的は勿論、欧州六ヶ国を訪問して、その宗教事情を視察することにあつたのですが、主として、ローマのバ

チカンを訪問し、ローマ法王に表敬すること、スイスジュネーブでのWCC(世界教会協議会本部)との会議、それに幾つかの寺院を訪ねて、見聞を広めることにあつたのであります。フランスのルーブル美術館、

ベルサイユ宮殿、ノートルダム寺院。

イタリアのバチカン、サンピアトロ寺院、古代ローマ遺跡、

コロッセオ、カタコンベ、

スイス、ジュネーブのWCC。

イギリスの大英博物館、ロンドン塔、ウエストミンスター寺院。

スペインの国立絵画館。

西ドイツのボン大学、ミュン

スター寺院。等を訪ねて、ヨーロッパの宗教や、文化に触れた思いはしましたが、その奥深きものには僅かな時間では、到底垣間見ることさえ、容易なことではありません。

洋の東西と比較すると、石材文化と木材文化、肉食を主とする文化圏と草食を主とする文化圏、一神教と多神教との違い等々、その異質の文化に戸惑いを感じ乍ら、西洋の長い歴史と伝統の上に燦然と輝く、ヨーロッパの宗教と美術を驚異の眼で見

てきたのであります。が、ロマネスク、ゴシック、ルネッサンス、などと呼ばれる美術は、宗教美術そのものであり、宗教と人間生活の関りあいの深さを充分に認識することができ。そこ

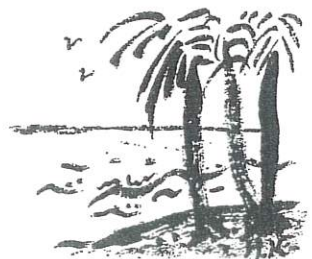
には生活の中の宗教が生きていると感じられるが、反面において、刃と血で描かれた宗教絵画の中に、現代までも延々と続く

聖地を中心とした宗教戦争の歴史を見て、一面自然との妥協がない、と云われるキリスト教の冷さを感じたものでした。

又、聖なる寺院に入り、壮大なる聖空間に圧倒される時、その足下には人々が永遠の眠りについており、墓碑の上を歩くことなど我々には、何とも説明の仕様もない感覚があるものだ



日南を出発して三時間余り経った頃、最初の目的地、霧島神宮に到着した。バスを降りて石段を上りながら、あれこれと自分勝手に想像して見た。あまりにも、種々雑多すぎて考えがまとまらない、そうしている間に、深緑の銀杏の木等に囲まれた、朱塗りの御本殿を目の前にした。それらが、あまりにも鮮明過ぎて、目にしみるような赤と緑だった。辺りにいる人まで、そんな色に染まってしまっ



と、異様な感情に怖れたもので、環境、その他、如何なる違いがあるとも、余りにも冷たく、淋しい感情を抱いたのであります。

幸なるかな、日本には、日本民族の永遠性を象徴する伊勢神宮と皇室を中心とし、自然と大らかに調和した民族精神があり、暖さと寛容なる心を培う素晴らしい道統があります。

あの、世界的著名なる学者、アーノルド・トインビー博士も称えた日本の心。

我々は、歴史的伝統を再確認し、神道の中に未来永劫の光りを確信して、次代へ真姿なる日本の国体を伝えなければならぬと痛感したものでした。

異国を旅して、日本の良さを思い、感想の一端を記して、御礼と報告にかえさせていただきます。

鹿児島方面研修旅行にて

斎女川崎絹代

鶉戸神宮も参拝客が少なくなく、つた六月の始め私達は鹿児島、指宿へと研修旅行に出かけた。

この研修旅行は私にとって四度目の旅行、今までの三回の研修旅行とは違い今度の旅行はバスを貸切り、六月十三日朝六時に鶉戸神宮を出発、九時にまず霧島神宮に参拝、今まで何度か霧島神宮に参拝した事はあるが、これまでとはまた違った面が沢山出て来たみたいなきがした。御社殿の中を始めて見て鶉戸神宮と何らかの関係があるという事、また上り龍、下り龍の彫刻は特に印象的だった。

次に鹿児島神宮、松原神社、照国神社、枚聞神社と全部で五社を参拝した。霧島神宮を除く四社は始めての参拝ゆえに興味があった。

五社を参拝した後、長崎鼻に行き指宿観光ホテルへと向った。ホテルに着きすぐ夕食、色々なショーを見ながらの食事、食事の途中にショーに参加したりして楽しい夕食であった。食事も済みショーも終りを告げ八時半頃には暮がおりた。十一時部屋に帰り、十二時には床につ

翌朝七時十分、指宿観光ホテルを後に私共一行は吾平山陵へと向った。バスの運転手、又ガイドさんも吾平山陵ははじめての参拝だと言ひ私共と一緒に参拝、鶉戸神宮のように上ったり下ったりこそはなかったが、とても長い参道であった。でも参

拝の甲斐があり、とても素晴らしい所を見せて頂いた。一瞬アツク鶉戸神宮の模型だ、なんて失礼な事を考えていた。でも由緒を聞いている内に、すばらしい所なんだなーなんて思い直した。吾平山陵を参拝した後、屋敷をすませ志布志を通り鶉戸神宮へと向った。出発した日頃から雨に降られ帰る日によく日差しを浴び、神宮についていたん又々雨が降り、雨の研修旅行という感でした。(二班)



巫子 田中恵子

日南を出発して三時間余り経った頃、最初の目的地、霧島神宮に到着した。バスを降りて石段を上りながら、あれこれと自分勝手に想像して見た。あまりにも、種々雑多すぎて考えがまとまらない、そうしている間に、深緑の銀杏の木等に囲まれた、朱塗りの御本殿を目の前にした。それらが、あまりにも鮮明過ぎて、目にしみるような赤と緑だった。辺りにいる人まで、そんな色に染まってしまっ

新年特別祈願祭の御案内

当神宮に於きましては、毎年、年頭に当り元旦より三日間特別祈願祭を斎行し、皇室の弥栄、国運の隆昌の祈願に併せ、崇敬者各位の御多幸御繁栄を祈願して居ります。

「一年の計は元旦にあり」、又、「笑う門には福来る」と申します。新たな年の始めに当り益々わが大神様の宏大なる御神徳を仰がれると共にその御加護により、除災招福、一家揃って福運を戴かれますよう、お励め致す次第でございます。

なお、本年より一つの祈願に対して五千円の初穂料で申込を受付致します。

井戸川責任役員の長逝を悼む

当宮責任役員井戸川一氏(八十才)は、七月二十六日入院先の県立日南病院で、脳出血のため突如長逝せられました。誠に痛惜に絶えないことであります。が、宮司をはじめ職員一同誌上をもってここに謹んで哀悼の意を表します。

氏は昭和四十一年十一月に当宮の責任役員に就任され、敬神の念厚く就任後直ちに、明治百年の記念事業として、御社殿二百五十七年目の御改修御造営に際し、奉賛会長として重責を果たされました。昭和四十三年、目度度く御造営成り、特に尽力された御功績により、昭和四十四年全国神社総代会において、神社界に対する功労者として表彰の栄を受けられました。

同年、鵜戸神宮御神奉賛会を組織し、奉賛会長として日南市民の念願であった日南市への御神幸にも尽力され、海上渡御の御神幸祭が実現しました。

又、神門、儀式殿、自動車被所、楼門、稻荷神社等の御造営にも筆頭責任役員として率先して力をいたされ、ここに当宮の暫期的御復興を見るに至りました。

昭和四十八年四月の天皇皇后兩陛下行幸啓時には、氏の唱へられた聖寿万歳の御声が鵜戸の御山に木霊し、その御声は今尚消えず山々に残っています。

氏は市民の人望厚く昭和二十五年、市政発足時の初代日南市長で市長通算四期をつとめるなど、各種団体の長として活躍され、昭和四十六年には日南市では唯一一人の名誉市民に推されました。

敬神崇祖を卒先垂範し、御神徳の発揚に、又奉賛事業に一貫して御尽力いただき、その熱心さは誠に敬服の至りであります。ここに氏の御功績を述べ追悼の意を表します。

井戸川氏を悼む

短歌

柔和なる

眼がのぞきいる

面影を

のこしてひとり

旅にたたすも

(関昌寿作)

鵜戸神宮交通安全講発足

鵜戸神宮自動車被所が昭和四十九年五月完成して以来、五年を経た現在毎年千件以上の祈願を奉仕して来ましたが、交通安全を願う皆々様のより一層充実した生活を送って頂く様五年を一区切として交通安全講を発足するに至りました。

崇敬者皆様の御入講を心よりお待ち申し上げております。内容は左記の通りです。

講員種別とその講費・待遇表

講員種別	年講費
名譽講員	多額金品奉納者 者格別功勞者
特別講員	一万二千円也
正講員	六千円也

注・神宮大祭案内とは二月一日・二月十七日・十一月二十三日の三大祭をいう。但し特別講員は二月十七日・十一月二十三日の二大祭に案内する。

車被特別扱いとは一般祈願者の祈願初穂料一、金五千円也を講員の方々のみ一、金三千円也でおまつりを御奉仕いたします。

申込先 日南市宮浦三、二二三二 鵜戸神宮社務所
電話(三六三)①一〇〇一代

待遇種別	講大祭案内	神宮大祭案内	全安守 特別交	札標講	証員講	参拜昇殿	報社	扱い特別被車
名譽講員	○	○	○	○	○	○	○	○
特別講員	○	○	○	○	○	○	○	○
正講員	○	○	○	○	○	○	○	○

編集後記

戦後、台風銀座と称されていた当県では、久しく台風の襲来はなかったのですが、去る九月の下旬、実に昭和四十四年以來十年ぶりに台風の直撃を受けました。ほとんどの建物が近年御造営改修されましたので、当宮境内では大きな被害はありませんでしたが、最大風速四十七米前後の風雨は、自然の威力の恐ろしさを知らされました。

台風一過、秋風のさわやかな今日此頃です。ここに社報第十四号をお届け致します。

本年は、第三十四回国民体育大会が、宮崎県で開催されるにあたり、夏季大会には皇太子同妃両殿下、秋季大会には天皇陛下と相次いで来県されましたが、当宮には皇太子同妃両殿下が御参拝遊ばされました。今回は御参拝記事を中心にカラー刷にて発行することができました。

時節柄皆様方のご健康をお祈り申し上げますと共に、本紙への皆様方により多くの投稿をお待ち申し上げます。

× × ×